Color Science Association of Japan

児島修二名誉会員　追悼文

正会員　速水久夫

2009年3月1日　関西支部の児島修二名誉会員が昇天されました(享年94歳)。葬送式は西宮市の甲東教会で3月4日に執り行われ、葬送の辞で「病床での洗礼」をお受けになったと知りました。私にとって大先輩の児島さんが、クリスチャンとして天に召されたということは、児島さんから信仰についてのお話を伺ったことは全くありませんでしたので軽い驚きでした。色彩学会で児島さんは、1980～81年に福田保会長の下で副会長を務められ、同時に関西支部長として第13回全国大会(京都)を指揮し企画実行されました。私にとっては関西ペイント㈱の上司として人生での多くのご教示をいただきました。学会誌Volume24-3 2000 p.189に「私の色彩体験」と題する先達からの一文がありますので見ていただければ幸いですが、色彩研究をテーマに関西ペイントに入社した新入社員の私に、児島さんから与えられたはじめての仕事が、この一文に紹介されているアメリカPPG社の“Color Dynamics”というカタログ・色見本の翻訳と色見本を複製し、日本語の社内版を作製する事でした(1960)。数年後、私が海外に駐在するときの社内人選では「速水君は英語ができるからよかろう」との児島さんの一言で決まったと後で聞き、現地で怪しい英語を使いながら、カタログ翻訳の一件を大いに誤解評価されてのことと、冷や汗をかいたものでした。

この頃から日本でカラコンとかカラーダイナミックスなどの言葉で、工場や住宅の色彩が設計されるようになってきたようです。当時まだカラーコーディネーターという名前が一般的でない時代に関西ペイントは日本色彩研究所の監修による「住宅の色彩設計」と題する色彩設計参考書を発刊しましたが、児島さんはその編集委員長を務められました。実物と模型の建築内外装の写真とカラースキーム120例を、厳選した塗料見本100色で示した画期的なもので一般書店でも販売されました。塗料がまだ性能本位で、色彩はそれほど評価されない時にすでに「塗料業界は色彩提供産業である」として塗膜とともに色彩を重要視しなければならないということを考えておられました。

また関西ペイントの取締役・製品開発部長としての人脈が広く、おかげで新人の私は多くの色彩関係の先生方にかわいがっていただきました。電総研(兵庫県)の岡田喜義先生の所へは、しばしば児島さんの用事で色見本や書類を届けに行き、有益なお話をうかがいました。日本色彩研究所の細野先生や関先生、川上先生、児玉先生などとも親しくお話ができ、川上先生には最近の全国大会でお会いするたびに、「児島さんはお元気ですか」とお声をかけていただきました。

児島修二（1914年9月19日～2009年3月1日）

晩年、児島さんは奈良法隆寺の「丹塗り(にぬり)」の色彩研究に精力的に取り組まれ1300年前の赤色を解明されました(1994年25回全国大会で発表)。

「法隆寺では上を向いて歩こう。1300年前の丹色が見えてくる」と冗談を言われない児島さんにしては珍しい名言でレジュメを結んでおられます。また「出島蘭館の緑青塗物語」というペイント塗りの事実を文献から調べた成果を卒寿の記念に書かれています(塗装工学誌2004.11)。心よりご冥福をお祈りいたします。

1914年　松山市生まれ
1936年　現千葉大学建築学科卒業　同年関ペ入社
1967年　同社取締役・製品開発部長　76年退社
1976年　金沢美術工芸大学　非常勤講師
　　大阪市立大学講師　兵庫県技術開発指導員
1981～93年
　　大阪まちなみ賞審査委員
著書「塗料と塗装」「塗装便覧」「塗装入門」など

NII-Electronic Library Service